

## 先輩から②「観察の観点，記録の取り方」

### 1 観察のポイント

特別支援教育の現場でよく言われ，私も心掛けている観察の観点は，次の三つです。

「これができるなら，これもできるようになるのではないか？」

「これはできるのに，なぜ，これができないのか？(つまりきの原因は何なのか?)」

「どんな支援があれば，できるようになるのか？」

そして，以下のことを自分に問い掛けています。

- ・障害によるその子の特性なのか？
- ・経験不足，未学習ではないのか？
- ・誤学習をしているのではないのか？
- ・肢体不自由等を補うための方法を見つけられていないからではないのか？
- ・困っているのは誰なのか？

教師が，児童生徒の支援について分からない理由は，「聞かない(確かめない)」「読まない(調べない)」「試さない」だと思います。静的な一方通行の観察ではなく，試行錯誤を恐れずに，直接関わったり働き掛けたりする動的な観察を心掛けてほしいと思います。

昔，音楽を聴く時はレコードだった時代の話…。「うちの子は，音楽が好きで，何時間もステレオの前に座っているんです」という保護者からの話がありました。そのまま信じていましたが，ある日，校外学習に行った先で，その子がゆっくり回る換気扇をじっと見ているのを見て…。…そう，その子は回転する物に興味があったのです。いろいろ条件や環境を変えてみたり，複数の目で見たりすることも，大切な観察のポイントだと思います。

### 2 ちょっとした指導記録のこつ

自分の日記(脚色あって良し)や保護者への連絡帳(多少オーバーな褒め言葉あって良し)となると，話は別ですが，日々積み重ねる記録を取るときのこつは，主観的な表現を避けることだと思います。主観的な表現を避けるということは，自分の感情を書き込まない，考察は後ですということなのです。

記録しておこうと思うことは，大概が児童生徒の言動や行動ですから，客観的に書くことができます。たとえば，「楽しそうな笑顔」「汚い言葉遣い」の「楽しそうな，汚い」は，書き手の感覚です。「笑顔」「○○○(言った言葉)」と「その前後の状況」だけを書き留めるようにします。これを積み重ねていくと，原因と結果が見えてきます。大切なのは，次のことだと思います。

- ・どういう状況(場面や働き掛けなど)のときにその言動・行動が表れたか。
- ・その後のその子の様子や，事後指導をした結果がどうであったか。

その関係性が分かって初めて「快反応の笑顔なんだな」ということが言えたり，「おなかがすいていた」「注意を引きたかった」などのその子の心の動きが見えたりします。言うまでもなく，それが指導の手立てにつながります。

また，文章表記を少なくし，記号化できるものは記号化することもこつの一つです。書く手間も時間も省けますし，前述の客観性にもつながります。チェックする項目が決まっているなら，表にするのも一つの方法です。